

# 米刑務所はテロリスト訓練施設だった：アブグレイブの元 囚人が語る

## イラク米軍刑務所の残虐の証言

<https://www.rt.com/news/575280-us-prisons-iraq-recruiting-terrorists/>

RT

April 24, 2023

アメリカはイラクに民主主義を約束した。しかし言葉とは裏腹に、集団虐殺と作られた宗教紛争によってすべてを破壊していった、と Nael Kamel は RT に語った。



数千のイラク人たちが、2004年5月5日、Abu Ghraib 収容所の前でデモを行った（旗はイラク国旗）

2003年に侵略軍とともにイラクにやってきたアメリカの、民主主義の約束は、結局、無差別殺人、弾圧、それに米収容所での拷問に変わっていった、と元アブグレイブ収容所の囚人 Duraid Nael Kamel は RT に語った。

カメルは逮捕され、最初、悪名高いアブグレイブ収容所に送られたが、結局は Bucca キャンプに移送された。彼自身の言葉によると、アメリカ人が彼を逮捕したのは、地方住民への弾圧と無差別虐殺をカメラに収めるためだった。

「我々は自由も民主主義も何も見せてもらえず、ただ無差別虐殺だけだった」とカメルは言い、アメリカ軍と彼らと組んだイラクの官憲が、「ランダムに、なぜか全くわからず」人々を逮捕し始めた、と言った。彼は、「侵略者たちを撮影し（証拠を撮った）人々がこっぴどく殴打される」ところを個人的に見ており、彼もまた「スナイパーが屋根に登り、家畜のように人々を撃ち殺しているフィルムを持っている」と言った。

アメリカ人たちは人々の家に乱入し、「公然と路上で」人々を殺し、また「バグダッドの郊外の集落や町全体に対し空爆を行った」と彼は説明し、このことが侵略部隊に対する反乱に火をつけた、と言った。

カメルはその後、イラクの地方の一つでレジスタンス運動に参加したが、ほとんどは、アメリカによって犯された残虐行為を記録することに集中した。「アメリカ人が言うのとは逆に、彼らに対抗したのはイラク人であって、どこかの反イラク組織ではない」と彼は言った。

関連記事：「ムスリム国家は、アメリカの民主主義という約束を信じていない」

<https://www.rt.com/news/574403-gallup-us-muslim-nations/>

カメルはバグダッドに帰ったとき逮捕され、彼の兄弟の家に軟禁された。一機のアメリカのヘリコプターが現れ、この家のテラスから彼を拉致した。その後、彼は「鉤に引っかけられた籠のようなものに乗って」どこかへ移送された。アメリカ人たちは、そこで彼を「テロリスト」として起訴した。

「我々はアメリカ人たちがやってくるまで、テロとは何かさえ知らなかった」と、カメルは主張する。アメリカ人たちは、「現実とは全く関係のない」罪状を、ただ作り出しているにすぎないと彼は言い、「何千もの人々」がこの立場に立たされていると加えた。

この元囚人によれば、彼のケースでは本当の調査は全くなく、アメリカ人獄吏によるひどい扱いだけが合った。この刑務所役人は警察犬を彼に喉け、彼らの鼻づらに頭を乗せて「話す」ように命じた。彼らはまた彼に水をぶっかけ、棒きれで打った。それで何本かの肋骨が折れることになった。

後に彼は、イラクの捕虜収容所として用いられている、もう一つの悪名高い米軍基地、Bucca 収容所に移送された。カメルによると、そこには過激派だけのための兵舎があり、収容所自体が「テロリスト訓練施設」として使われていた。彼はまた、イラクを破壊した宗教紛争を引き起こしたのは、アメリカだと言った。

アメリカ人たちはブッカ収容所で、スンニ派をシーア派から分け、その状態を継続させた。これらの施設すべてに、宗教的「派閥」について話すことによって、「仲間を拷問させ、彼らを洗脳する」役目の者たちがいた。それは「収容所内で宗教派閥を組織するための、最初の段階だった」と彼は付言した。

カメルによれば、「何万というイラク人」がアメリカの刑務所を経験しているという。

「アメリカ人たちは、イラク人から権利というものを奪ったのであり、今でも、権利のために戦うことを許さないのだ」と彼は加えた。この男自身が、逮捕後、14か月たってから解放された。アメリカの官憲は、書類に署名させて、彼がどんな訴状をも提出することを禁じ、彼が監禁されていた監獄のどんな内部事情をも、公にすることがないように命じた。彼の兄弟のうち2人が逮捕され、ブッカ刑務所で亡くなった。別の兄弟の一人は死に、もう一人はびっこの状態で残されている、とカメルは言った。

「アメリカ人たちは、我々を殺すためにやってきたので、自由や民主主義をもたらすためではなかった」と、彼は結んだ。

#### [訳者 Greatchain 注]

これは短いが、アメリカの戦争犯罪史でも特筆すべきイラク戦争の、忘れてはならないひとこまを描いたものである。この残虐で非人道的なやりかたが、アメリカの普通のやり方だと思ってよい。インタビューに応じた人物は、名もないイラク人犠牲者の一人で、ありのままを語っている。(因みに、「アブグレイブ刑務所」は、シーモア・ハーシュも調査している。<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/230214.pdf>)

「我々はアメリカ人がやってくるまで、テロとは何かさえ知らなかった」というカメルの言葉は、完全に平和だった場所に、青天の霹靂の如くにこれが起こったことを表している。アメリカ人の罪業の深さを感じさせる。このイラク人は死んでも、アメリカ人を許さないであろう。

しかし翻って、このイラク人を日本人に置き換えてみるとよい。ここでは何が起こったか？ **アメリカによる洗脳によって、アメリカ信者の多い日本人の間では、逆のことが起こったと考えてよい。「世界の警察」アメリカ軍がやることは正しいはずだ、これはイラクに何か落ち度があったのだろうと考えるように、我々は躰けられている。(イラクの「大量破壊兵器」がウソだったことも、忘れていだろう。)**

これはあまりにも悲しいことである。いま少しずつ真実が現れ、意識も変わりつつあるが、まだ十分ではない。事情をよく知る人々が協力して、このような真実の断片を少しでも知らせるように、辛抱強く努力するほかないであろう。